　読売新聞の記事によると、日常的に医療情報に接する機会としてはテレビ、新聞の比重が高い一方、いざ病気になった時などに必要な情報を探す際にはインターネットを利用する人の割合の高いことが、海原純子・白鴎大教授（医師）らのグループの調査でわかったという。

　調査は、20～80歳の男女約2800人を対象にアンケートし、医療情報の入手方法などを尋ねた。この3カ月間で、どのメディアの健康情報・記事
を見たかについての回答では、テレビ79％、新聞69％に対し、インターネットは35％にとどまった。しかし、必要になって医療情報を調べる場合は、インターネットを利用する割合が70％と高かった。